



新たなテレワークの形の提案

仙台第三高等学校 A8班

◎背景(2021年時点)

- ・新型コロナウイルス→テレワーク等の働き方の変化

～テレワークのメリット～

- ・場所や時間にとらわれない働き方
→ワーク・ライフ・バランスの実現が可能



- ・通勤コストや人件費の削減
しかし...

メリットが多い反面、あまり普及していない
(総務省の情報通信白書)

◎研究内容・目的

テレワークで対面と同等の内容の仕事ができれば
もっとテレワークは普及しているはず

実験を通してテレワークの欠点を見出す

新たなテレワークの形の提案

◎調査実験の方法

- ①3人一組のグループを4つ作る



- ②実験内容

函館と大阪にあるそれぞれ4つの観光地に旅行する
ルートについて話し合せて、会話の満足度と
話し合いにかかった時間を調べる。

- ③実験終了

ルートと実験にかかった時間を確認して、アンケート
を行う。

<ルール>

- ・午前8時30分に新大阪駅or函館駅スタート
- ・北海道ルートはテレワークで話し合う
大阪ルートは対面で話し合う
- ・函館の指定観光地 立待岬 昭和公園 五稜郭
志苔館(しのりたて)跡
- ・大阪の指定観光地 大阪城 通天閣 大阪天満宮
住吉大社
- ・交通費は1人3000円(昼食は話し合いに含まない)

◎予想される調査・実験の結果・考察 予想

- ①かかる時間 ほぼ変わらない
- ②話しやすさ 対面>テレワーク
タイムラグなどが会話に支障を来し、伝わりにくい
部分が出てくる

◎実験の結果

グループA	かかった時間	話しやすさ
対面	7分	満足
リモート	20分	不満
対面とリモートの差	13分	
グループB	かかった時間	話しやすさ
対面	3分30秒	満足
リモート	11分30秒	やや不満
対面とリモートの差	8分	

◎実験を通しての意見

- ・テレワークは音声がきれいに聞き取れず、意見の共有が難しかった。
- ・テレワークでの話し合いに特に不満はなかったが、対面での話し合いのときと比べると、相対的に満足できないように感じた。

◎考察

テレワークでは、意思疎通を取ることが難しかったため対面と比べて不便であり、またかかった時間から見ても対面のほうがスムーズだったという結果が出た。

テレワークのメリットを生かす方法を探っていく。

◎まとめ

- ・実験からテレワークは対面に比べて円滑にコミュニケーションを取ることが難しい。
- ・時代は移り変わり、テレワークは普及してきた。しかしテレワークだけで仕事を成り立たせるのは厳しい。
- ・テレワークとオフィスワークのそれぞれが持つ生産性へのメリットを生かすことこそが新しい働き方のモデルになり得る。

◎参考文献

テレワークと職場の変容—佐藤彰男 <https://www.iil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2012/10/pdf/058-066.pdf>
総務省—情報通信白書—テレワークの推進
日本におけるテレワークの成功要因 古川靖洋

総務省—情報通信白書—テレワークの推進

日本におけるテレワークの成功要因 古川靖洋の学術記事